

証券コード:7272



ヤマハ発動機株式会社
第81期 中間報告書

2015年1月1日から2015年6月30日まで





株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

第81期第2四半期連結累計期間（以下、当上半期）の事業内容をご報告申し上げます。

当上半期の経済環境は、米国では雇用環境が改善し、個人消費も拡大を続けました。欧州でも個人消費の持ち直しが見られ、6月末にギリシャ債務問題が再燃しましたが、全体的に緩やかに景気が回復しました。一方、新興国ではインドネシアやブラジル、中国などで景気低迷や通貨安が懸念される状況が続いています。日本では個人消費の持ち直しや株高を背景として景気回復が進みました。

このような経済環境の中、当社の先進国事業は増収・増益となりました。一方、新興国事業においては前年並みの業績水準を維持しました。以上の結果、当上半期の売上高は8,211億円（前年同期比651億円・8.6%増加）となりました。利益面では、各事業セグメントで収益体質改善が進み、営業利益は697億円（同206億円・41.9%増加）となりました。経常利益は744億円（同253億円・51.5%増加）、四半期純利益は521億円（同199億円・61.7%増加）となりました。

なお、当上半期の為替換算レートは米ドル120円（同18円の円安）、ユーロ134円（同6円の円高）でした。

配当につきましては、通期連結業績予想を当初予想より変更していないことを踏まえ、年間配当予想は当初予想通り1株当たり44円とさせていただきます、中間配当は1株当たり22円とさせていただきます。

株主の皆様には、なお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2015年9月
代表取締役社長

柳 弘之

◆ 第81期上半期経営総括

各事業セグメントにおいて収益体質の改善が進みました。

■先進国 市場回復～安定する中、各事業の増収・増益続く

- 二輪車事業：市場の回復が続く中、当社は「YZF-R1」や「MT-09 TRACER」などの新商品投入効果や構造改革が進んだことにより、黒字化を達成しました。
- マリン事業：好調な市場モメンタムは続いており、北米での大型船外機やウォータービークルの販売台数増加や円安効果などにより、増収・増益となり、営業利益率は20%を上回りました。
- 特機：北米のレクリエーショナル・オフハイウェイ・ビークル（ROV）市場の回復が進み、当社は新商品「Wolverine」を投入したことなどにより、増収・増益となりました。

■新興国二輪車 高価格商品・プラットフォーム効果等により販売台数の減少や通貨安を吸収

- アセアン：販売台数は、「Exciter」「Nozza Grande」が好調なベトナムや、フィリピンで増加し、インドネシアでは市場低迷の影響などで減少しました。プラットフォームモデルの市場浸透に注力し、インドネシア・タイ・ベトナムでの同モデル比率は34%となりました。
- 南アジア：インド市場は横這いながら安定感が続き、当社は高価格帯で高シェアを獲得しました。スクーターのラインナップ拡充を進め、新商品「Fascino」を投入し、また、最大需要領域に125cc「Saluto」を投入しました。なお、本年よりチェンナイ（南部）の二輪車工場が稼動を開始し、さらに、需要が拡大するパキスタン市場においても、カラチ市の二輪車工場が完成し、稼動を開始しました。

◆ 連結業績予想について

マリン事業、先進国二輪車事業、ベトナム・台湾の二輪車事業の増収・増益要因が、インドネシアなど一部の二輪車事業の減収・減益要因を吸収する見通しであることから、通期の連結業績予想は当初予想から変更していません。

2015年12月期連結業績予想

売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	換算レート(\$/€)	年間配当金
17,000億円	1,200億円	1,230億円	760億円	\$118円/€132円	44円



欧州向けスポーツマルチモデル 「MT-09 TRACER」

「MT-09」をベースに開発した、市街地走行からツーリング用途まで多彩なシーンでスポーティかつ快適な走行を楽しめる“スポーツマルチ”モデルです。

ツーリングを支援するシステムや、走破性・快適性・積載性を強調したスタイル、多機能メーターパネル、フルLEDヘッドライトなどが特長です。



ピュアスーパースポーツモデル 「YZF-R1」

MotoGPマシン「YZR-M1」の技術思想を体感できるサーキット最速のポテンシャルを備えるモデルとして開発しました。サーキット走行での性能を重視する先進国地域のお客さまのニーズに応えることはもとより、新興国を含む全世界に向け、ヤマハブランドを訴求するフラッグシップモデルです。

ウォータービークル 「FX Cruiser SVHO」

当社独自の超軽量艇体用素材をさらに進化させ、強度・剛性は維持しつつ、軽量化により運動性能を向上させています。また、新開発の革新的なデバイス「RiDE」(ライド)を搭載し、減速や後進時に、直感的かつスムーズな操船を可能にしています。



電動アシスト自転車「PAS SION」 2015年モデル2機種

発売以来、シンプルでわかりやすい機能や軽量・コンパクト・低サドル高という特長に共感とご支持をいただき、シニア層を中心に、幅広い年齢層のお客さまにご利用いただいているモデルです。2015年モデルは、次世代ドライブユニットを搭載し、さらに軽量化を進め、使う人にやさしく便利な機能を充実させました。



ROV第3弾「Wolverine」

ROVは、北米を中心に業務からレクリエーション、スポーツまで幅広い市場があり、需要は増加傾向にあります。当社がこれまでに導入したモデルは、農業や酪農などの業務用としての利用が中心のマルチパーパスモデルでしたが、「Wolverine」は、特にニーズの高い優れたオフロード走破性と乗員の快適性を高次元で両立したレクリエーションモデルです。



エレクトリックコミューター 第4弾「E-Vino」(原付一種)

レトロポップなスタイルで人気の原付1種スクーター「Vino」をベースに、EVならではの滑らかな走りを活かし“楽しい乗りもの”を提供する当社の技術思想“Smart Power”に基づいて開発した製品です。

鈴鹿8耐 決勝

YAMAHA FACTORY RACING TEAMが1996年以来、通算5回目の優勝

2015年7月26日（日）、三重県鈴鹿市で、鈴鹿8時間耐久ロードレース第38回大会の決勝が行われ、2002年以来となるファクトリーチーム「YAMAHA FACTORY RACING TEAM」から中須賀克行選手、ポール・エスパルガロ選手、ブラッドリー・スミス選手の3人が「YZF-R1」で出場、204周を走破して1996年以来19年ぶり通算5回目の優勝を果たしました。



車いす用電動アシストユニット「JWX-2」が海外・国内のデザイン賞を受賞

「JWX-2」が世界的に権威のあるドイツの「iFデザインアワード」のプロダクトデザイン部門で、「iFプロダクトデザインアワード2015」を受賞しました。本賞は世界の工業製品等を対象に、優れたデザインが選定されるものです。

また、「JWX-2」20インチ仕様は、第9回キッズデザイン賞の優秀賞である「経済産業大臣賞」を受賞しました。



車いす用電動アシストユニット「JWX-2」※写真は22インチ仕様

「JWX-2」装着例

当社WEBサイト内に「個人投資家の皆さまへ」を公開

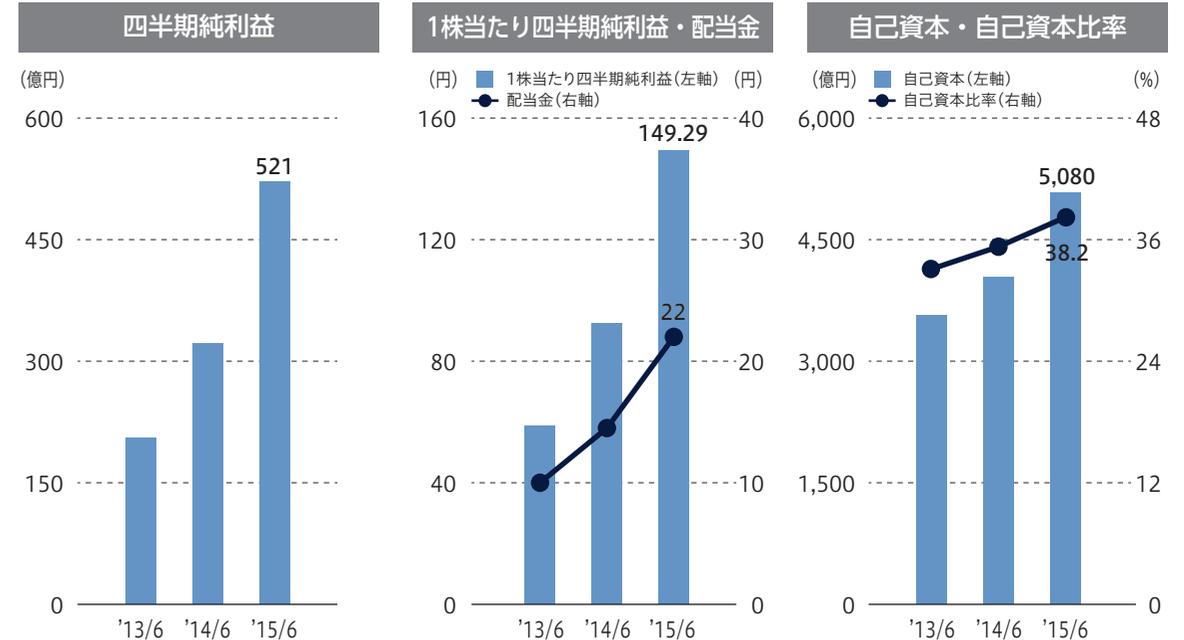
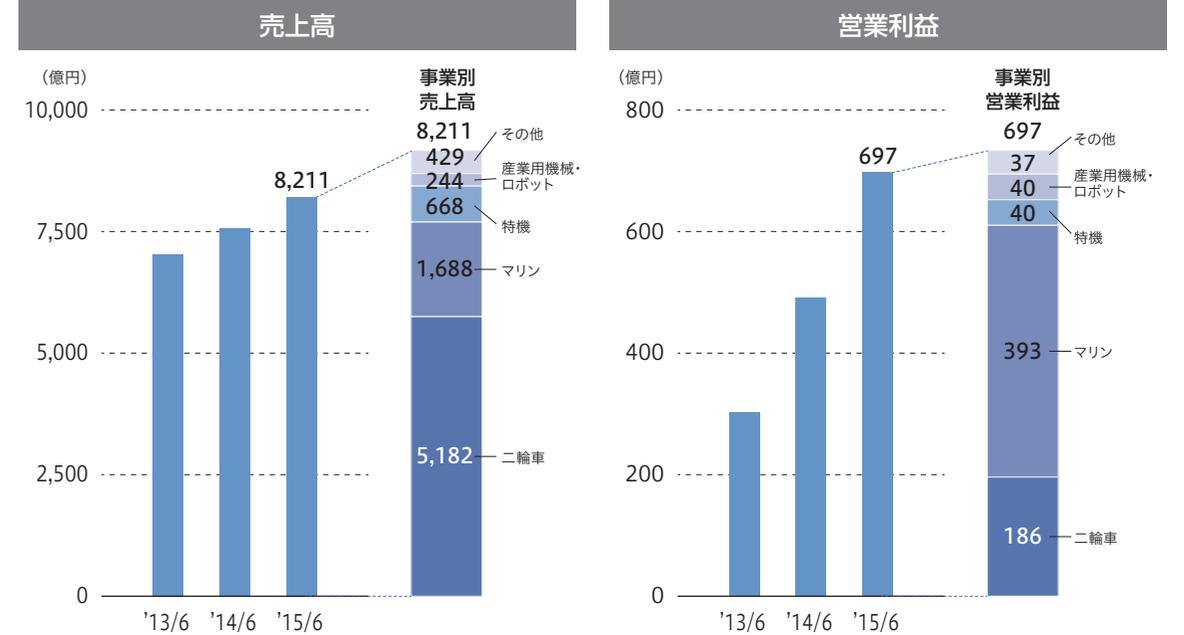
当社のことをご理解いただくために、当社の事業や特長、業績、今後の展望などをわかりやすく説明しています。

ヤマハ発動機 個人投資家の皆さまへ

<http://global.yamaha-motor.com/jp/ir/individual/>



連結業績（第2四半期連結累計期間）の推移



株式情報 (2015年6月30日現在)

発行可能株式総数 900,000,000株 発行済株式総数 349,896,784株

株主数 34,369名

所有者区分	個人	金融機関	国内法人	外国人	証券会社
2015年6月末	7.2%	29.4%	20.9%	41.0%	1.5%
2014年12月末	7.3%	28.0%	20.9%	42.2%	1.6%
2014年6月末					

(注)「個人」には自己株式が含まれています。

大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)
ヤマハ株式会社	42,642
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	38,027
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	15,548
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	12,618
トヨタ自動車株式会社	12,500
株式会社みずほ銀行	11,824
三井物産株式会社	8,586
株式会社静岡銀行	6,813
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口9)	5,575
ステート ストリート バンク ウェスト クライアント トリーティー 505234	3,718

役員 (2015年6月30日現在)

代表取締役社長	柳 弘 之
代表取締役	木村 隆 昭
取締役	篠崎 幸 造
取締役	秀島 信 也
取締役	滝沢 正 博
取締役	渡部 克 明
取締役	加藤 敏 純
取締役	小嶋 要 一郎
社外取締役	安達 保
社外取締役	中田 卓 也
社外取締役	新美 篤 志
常勤監査役	伊藤 宏
常勤監査役	廣永 賢 二
社外監査役	遠藤 功
社外監査役	谷津 朋 美

株主インフォメーション

事業年度	1月1日から12月31日まで
剰余金の配当の基準日	期末配当：12月31日 中間配当：6月30日
定時株主総会	3月
単元株式数	100株
公告の方法	電子公告によります。ただし、やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒460-8685 名古屋市中区栄三丁目15番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
各種お問合せ先 郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
同取次窓口	三井住友信託銀行株式会社全国本支店

お知らせ

- 住所変更、単元未満株式の買取・買増、配当金受取方法の指定等のお申出先
 - 証券会社に口座を開設されている株主様
お取引先の証券会社等にお申出ください。
 - 証券会社に口座がなく、特別口座に記録されている株主様
特別口座を開設している下記の口座管理機関にお申出ください。
口座管理機関：三井住友信託銀行株式会社
- 配当金のお受取りについて
配当金の支払期間が過ぎた場合でも、支払開始の日から3年以内はお受取りいただけます。株主名簿管理人にお申出ください。支払開始の日から3年を経過した場合、当社定款の規定によりお受取りいただけませんのでご注意ください。

【画像訂正のお詫び】

株主の皆様にお送りした「第81期中間報告書」の新品「YZF-R1」画像に誤りがございました。本PDF上では差し替え後のものを掲載しております。お詫びして訂正いたします。

ヤマハ発動機株式会社

〒438-8501 静岡県磐田市新井2500番地
電話 0538-37-0134

<http://global.yamaha-motor.com/jp/>

